

平成30年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 野崎西 小学校
校長氏名	辻中 宏誠
作成日	平成 31年 2月 19日

1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応して
たくましく生きる心豊かな児童の育成に努める

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力	ゆたかな心の育成	健やかな体の育成	開かれた学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国や県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を目指す ・わたしは毎日の勉強がわかると答えている児童 90% ・児童の興味・関心・意欲を引き出せる指導の工夫をしている教師 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと感じる児童 97% ・「私たちの道徳」「心のとびら」等道徳教材の活用率 100% ・いじめの解消率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんを食べてくる児童 100% ・スポーツテストでA・B判定の児童 50% ・積極的に運動をおこなうよう計画し、実践した教師 90% ・給食が楽しみ 児童90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子がよく分かったという保護者 95% ・子供は学校の様子をよく話すと感じる保護者 90%
重点目標 【P】	<ul style="list-style-type: none"> ◎全ての教科での授業力向上 ◎児童の発言を重視した授業の推進 ○家庭学習の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳・人権教育の充実 ◎一人一人を大切に教育の推進 ○体験的活動を多く取り入れ、心豊かな子供を育てる ○全児童を全職員で育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成 ○運動に親しむ態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ○地域の教育資源や人材活用の推進 ○学生ボランティアの活用
取組の状況 【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科のみならず、国語・算数の研究授業を通して、協議会を行い、積極的に研修をおこなってきた。学力テストの分析より、児童の学力の実態を把握し、全教職員で共通理解したうえで学力向上に取り組んできた。 ・和歌山の授業基礎・基本3か条の定着を図り、授業形態を確立させた。 ・基本的生活習慣を確立させ、自主学習の時間を確保するよう、保護者に啓発してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた読み物資料の活用や体験的な活動を計画的に取り入れた。 ・地域と連携しながらボランティア活動に取り組んだ。 ・休憩時間や放課後においても児童と積極的に関わり、全職員で全児童を育てる学校運営を、組織的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の楽しさを学ばせるため教材研究や体育環境を整備し、授業実践をおこなってきた。また、事前・事後アンケートで研究を深めてきた。 ・朝の運動を通して、様々な運動感覚を養い、体力の向上を図ってきた。 ・健康生活チェックや歯磨きチェックを通して、自ら健康管理ができるよう取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」を毎月保護者や地域に配布し、情報発信をおこなうとともに教育活動を広報し、地域から意見をいただくことができた。 ・作品展や文化祭を通し、公民館との交流を図った。 ・和歌山大学の学生ボランティアを6人受け入れ、体力向上・学力向上、特別支援活動に活用することができた。
取組の成果と課題 【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力テストにおいて理科以外はすべて全国平均を上回った。今後も問題と課題を分析し、考えを書かせる時間確保の重要性を再認識した。 ・うちどくや自主学習の定着を図り、家庭学習を習慣づけるため、根強く保護者への啓発を続けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを毎学期実施し、小さなことも見過ごさず、早期発見・対応を心掛けた。 ・生活指導部会を定期的におこない、情報の共有が図れた。 ・毎学期「いじめ防止」の取組の様子を「学校だより特別号」で保護者や地域の方々へ知らせ、情報の共有を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートをもとに授業計画案を工夫することで、運動好きの児童が増加している。 ・個人の課題を確認することで、できた喜びを実感させることができた。 ・種目によって得意・苦手が原因で積極的に取り組めない児童に、どのようなスマールステップで興味をもたせていくか考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動を広報することにより、避難訓練時にたくさんの地域の方が参加してくれた。 ・避難訓練、公園の清掃活動、公民館と連携した作品提示会など、関係機関や地域と連携した行事を毎年継続しながら、より充実した取り組みにしていきたい。
改善方法 【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・評価問題等を中心に、基礎基本の徹底を図る。 ・国語・算数主任が中心となり、計画的に公開授業・研究協議の時間を設定し、個々の授業力向上を目指す。 ・自主学習の定着を目指し、家庭と協力しながら、家庭学習の時間確保を積極的に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見に努め、全教職員が事実を共有して共通認識の下、組織的に対応していく。 ・教育活動全体を通し、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ・関係機関の協力を得て、「情報モラル教室」を低学年から計画的・継続的に実施する。 ・日々の細やかな観察を通し、保護者と連携しながら、いじめ防止を強化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のめあてをしっかりと持たせ、課題克服に向けた取り組みの過程を大切にさせていきたい。 ・運動が得意でない児童でも、やってみようという感情がわくような場面設定を考えていきたい。 ・事前事後の気持ちの変化がみられるアンケートをもとに、一人一人に応じた達成感を味合わせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学校生活様子を見ていただけるよう、各種行事を工夫し、広報していく。 ・図書ボランティアなど地域の人材確保に努め、より連携を強めたい。 ・HP更新や学校だよりに一層力を注ぎ、学校への意見をいただけるよう工夫する。 ・和歌山大学への避難訓練を見直し、一人でも避難できる心構えをつけさせていきたい。

3 その他の課題

・毎日の清掃活動には児童・教職員ともに熱心取り組んでいるが、保護者アンケートに毎年取り上げ得られる、施設全体の老朽化問題と、トイレの改修が課題として残る。学校でおこなえる危険個所の修繕作業には、校務員が中心となり、全教職員で取り組んでいる。他の修繕箇所は毎年優先順位をつけて、市施設課に要請しながら環境整備に努めている。

・全国学力テストにおいては、おおむね県平均を上回ることはできたが、和歌山県学習到達度調査においては、いまだ基礎基本が定着しきれない点や無回答が多いのが気になる。日頃から、子供たちから様々な意見を引き出し、自分の考えをまとめてわかりやすい言葉で人に説明する習慣を、教育活動全体を通して身につけていかなければならない。教師が答えを導き出すのではなく、与えられた問題に対しまず自分で考え、クラスで話し合い、何がどう正しいかを説明できる児童の育成に努めていきたい。時間をかけて、自分の考えを書かせる学習を中心として、取り組んでいく必要がある。